

岐阜分室の開設にあたって

リバーフロント整備センター岐阜分室 研究第三部 次長 梅谷内信夫

（助）リバーフロント整備センターは、水辺空間に関する調査研究および技術開発を総合的に実施し、かつその成果を幅広く社会に活用して、安全で豊かな潤いのある国土の建設に資することを目的に、昭和62年9月1日に設立されて今年で9年目を迎えておりますが、皆様方の暖かい御支援により順調な歩をつけてまいることができました。

一方岐阜県においては、「人間と自然とのふれあい、自然との共生」を、県政推進の基本理念として各種の施策を進めておられること、日本列島の中央部に位置していること、木曾三川を中心として中部地区には自然豊かな環境を有した河川があり、かつ既往調査の実績も多いこと等を考慮し、7月1日付で岐阜分室を開設いたしました。

岐阜分室は、（助）ダム水源環境整備センターと協力して人間生活と調和のとれた自然豊かな川づくりを一層進めるため「自然共生河川研究所」の名のもとに水辺空間にかかわる調査、研究を進めていこうというものです。

これからの新しい川づくりの中心的課題は、自然と人間との共生を目指した川づくりにあります。当センターは発足以来この課題に先見的に取り組んできましたが、建設省においても平成2年度には水辺の国勢調査がスタートし、平成3年度には多自然型川づくりモデル事業、平成4年度には魚ののぼりやすい川モデル事業が進められ、平成5年度には環境基本法を踏えて、環境政策大綱が発表され、豊かさを実感できるような環境づくりを目指し、政策・施策の展開の方向が総合的に示され、これからの川づくりに

その精神が生されようとしています。

「川づくり」は本来その地域に合った川づくりをすべきであり、そのためには現地をよく観察すること、自分の眼と足で確認することが大切です。また、コンクリートと矢板を主体としたこれまでの河川改修よりは水理現象等がより複雑になり、かつ使用する材料の強度に未知な分野が多くなるとともに材料の組合わせ等を含めてこれまで以上に技術力の向上に努める必要があります。

また、「川づくり」が旨く進んでいるか否かの判断には長い年月が必要であり、その追跡調査や維持管理にも留意していくことが大切です。

岐阜分室は、現地にて具体的な現象や追跡調査を進めることによって、より良い川づくりに貢献できるものと考えております。

開所式は7月3日に桑田岐阜県副知事立合いのもとに、（助）リバーフロント整備センター寺田理事長と（助）ダム水源環境整備センター近藤理事長の手によって名板が掲示され岐阜分室がスタートしました。

（助）リバーフロント整備センターが積み重ねてきました調査研究に加え、岐阜分室がスタートすることによって、より現地に配慮したきめの細かい調査研究の成果が蓄積していけるように努力を重ねてまいり所存でありますので、各位のより一層の御指導と御支援を賜りますよう岐阜の地よりお願い致します。

